

第204回 令和8年4月6日（月）

## 「心理的安全性について」

オリンピックでも、メジャーリーグでも、最近の日本人の若い選手の活躍は目覚ましいものがあります。科学的トレーニングの発達や栄養状態の変化で体格が外国とも差がなくなってきたからでしょうか。

それでも海外選手と日本人を比較すると身長は一部の選手を除いて歴然としています。大谷選手だって目立って大きいとは言えません。それでもあらゆるスポーツで世界が近づいているのはなぜなのでしょう。

私は指導者の「心理的安全性の担保」の効果ではないかと思っています。かつて指導は「厳しくなければ効果がない」と思われていました。

私もバスケットボールの競技を始めた中学時代はかなり厳しい環境だったので、練習でも試合でもコートに監督の姿が見えると緊張感が走りました。

褒められることはあまりないので怒られることが多いのですが、始めて間もない時期ですから「なぜ怒られているのか」「どうすれば修正できるのか」をほとんどわからず、どうすれば怒られないかを考えてプレーしていました。

大人になってクラブチームで楽しみながらバスケットをするようになった時、自分では一番伸びたように感じています。ちょうど3点シュートのルールができたときだったので、ロングシュートについて一生懸命研究しました。

安心して失敗できる環境が人間の成長にとって欠かせないものであることは確実です。スポーツよりも実社会は多少遅れているように感じています。まだ心理的安全性が担保されていない企業であったり、組織であったり、多い気がします。

そのような組織に問題が多いのか、少ないのかはデータがないのでわかりませんが、隠蔽体質が多いことは確かだと思います。事件が発覚したとき、大きくなってしまふのはこのような組織です。

人間がやっている以上ミスは必ず起きます。責任を問うことも必要ではあると思いますが、大事なことはどのように改善策に活かしていくかだと思います。

私もそうですが、管理職とは責任をとるための仕事です。社員が失敗を恐れずにチャレンジできる環境を作ることは最も大切なことです。

チャレンジする環境をつくること、自分でレベルアップの方法を探究する、そのために心理的安全性は非常に大切だと思っています。